

専任教員養成講習会における
eラーニング適用科目シラバス

厚生労働省

目 次

教育原理	1
教育方法	4
教育心理	7
教育評価	10
情報通信技術	13
看護論	16
看護教育・制度論	21
看護教育課程論	26
看護教育方法論	36
看護教育評価論	47
看護学校組織運営論	52

授業科目	教育原理
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	30
担当講師	細川 和仁、山岸 利次

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	教育原理
担当講師	細川 和仁、山岸 利次
動画数	30

講義の概要

■中項目 1～3 (担当:山岸 利次)

教育学の原理的内容のうち、教育史、教育思想、教育の社会的、法・制度的事項について学習する。

■中項目 4～8 (担当:細川 和仁)

カリキュラム開発の考え方や学校教育におけるカリキュラムの役割などについて、理論的背景を学習するとともに、学力との関わり、カリキュラム開発・運用における教師の専門性について学習する。

■中項目 9～10 (担当:山岸 利次)

教育学の原理的内容のうち、教育の経営的事項、教育の現代的課題について学習する。

講義の到達目標

■中項目 1～3

1. 教育とは何か、教育とは何をめざすか、について、一般的な問いを通じ理解できる。
2. 教育が人間の発達と社会の発展にとって持つ意味について、学校教育制度及び生涯学習・社会教育制度の発展の歴史に即して、また子どもの権利という観点から、理解できる。
3. 学校の運営方法及び教職員に求められている役割や専門性が理解できる。

■中項目 4～8

1. 教育課程の編成に関わる基本概念について理解できる。
2. 学習指導要領の概要とコンピテンシー・ベースの教育課程について理解できる。
3. 子どもや社会と教育課程の関係について理解できる。
4. カリキュラム開発と教師の専門性について理解できる。

■中項目 9～10

1. 学校と保護者・地域との連携・協働など現代的課題を視野に入れ、他の関係機関とのコーディネート的重要性が理解できる。
2. 現代社会における教育が対応すべき課題について理解できる。

講義内容

大項目	中項目		内容
「教育」及び「教育」概念の原理的理解	1	「教育」概念の歴史と思想	1) 「教育」の語源学 2) 「教」・「育」の原義 3) “education”の元々の意味
	2	社会における「教育」とその目的	1) 学校の成立と「教育」の意味変化 2) 学校教育が目指す人間像
	3	教育法・制度の概観	1) 日本の教育制度の概観 2) それぞれの学校段階とその概要 3) 生涯学習と社会教育 4) 日本国憲法と教育基本法 5) 子どもの権利条約

教育課程論	4	カリキュラムの基礎	1) カリキュラムとは 2) カリキュラムをめぐる教育思想 3) カリキュラムの内容選択の基準
	5	カリキュラムの構造と学力	1) 学力とは何か：キー・コンピテンシーと PISA 2) コンピテンシー・ベースのカリキュラム 3) 授業づくりとカリキュラム
	6	教育制度としてのカリキュラム	1) 学習指導要領の変遷 2) 学習指導要領と教科書 3) 学習指導要領と指導要録，通知表 4) 「総合的な学習の時間」の意義
	7	子ども，社会とカリキュラム	1) 子どもの発達とカリキュラム 2) 社会に開かれたカリキュラム 3) 社会からみたカリキュラム
	8	カリキュラムと学校改善	1) 学校を基盤としたカリキュラム開発 2) 学校改善を目指した学校組織文化
教育制度の理論及びその現代的課題の理解	9	教師の専門性と学校経営	1) 専門職としての教師 2) 「チーム学校」と他職種・他機関との連携 3) 保護者・住民と学校との協働
	10	教育の現代的課題	1) 格差社会における教育 2) 看護と教育との接点

参考図書

■中項目 1～3

1. 山崎準二，寺崎 弘昭ほか. 教育原論. 学文社. 2018.
2. 北海道大学教育学部. とともに生きるための教育学へのレッスン40 明日を切り拓く教養. 明石書店. 2019.

■中項目 4～8

3. 古川治，矢野裕俊ほか. 改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論. 北大路書房. 2019.
4. 田中耕治. よくわかる教育課程(第2版). ミネルヴァ書房. 2018.
5. 志水宏吉. 「つながり格差」が学力格差を生む. 亜紀書房. 2014.
6. ドミニク・S・ライチェン，立田慶裕ほか. キー・コンピテンシー. 明石書店. 2006.

■中項目 9～10

7. 勝野正章，庄井 良信. 問いからはじめる教育学. 有斐閣. 2015.
8. 木村元，神代健彦. ≪系統看護学講座 基礎分野≫教育学. 医学書院. 2015.

備考

授業科目	教育方法
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	30
担当講師	藤江 康彦

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	教育方法
担当講師	藤江 康彦
動画数	30

講義の概要

「授業」について様々な視点から検討する。学校や教室といった制度的な学習の場の特質、教育実践を方向づける学力論や学習論、学習者論、授業の構造や授業デザインの方法、コミュニケーションとして教育実践をとらえる視点、専門家としての教師の学習や発達、を理解することをめざす。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取ることができるのか、ということを追究していく。

講義の到達目標

1. 教室を中心とした制度的な学習の場の特質が理解できる。
2. 現代の学力論や学習論の動向が理解できる。
3. 授業の構造をとらえるための視点や授業デザインの原理が理解できる。
4. 授業のコミュニケーションの特徴と授業における教師の役割が理解できる。
5. 専門職としての教師の学習と発達の特徴が理解できる。

講義内容

大項目	中項目		内容
教室という場所	1	教室という時空間	1) 教室の時間 2) 教室の空間
	2	教室の経験	1) 学校の原風景から教育を問う
	3	教室における学習の特徴	1) 問題解決としての授業 2) 関係性の編み目の中での学習
学習者を理解する	4	学習者とは	1) 能動的な学び手としての学習者 2) 発話スタイルの個別性
	5	学習者の声を聴く	1) コミュニケーションと学習 2) 学習者の発話の特徴
	6	学習者を中心とした授業	1) 問題基盤型学習 2) プロジェクトに基づく学習
授業という営み	7	授業の成り立ち	1) 学習環境としての授業 2) 授業デザインの視点
	8	授業を準備する	1) 授業をデザインする 2) 教材を研究する 3) 協働学習をデザインする 4) メディアを活用する
	9	授業をおこなう	1) 発問をおこなう 2) 説明をおこなう 3) 語る 4) 学習者の論理につきあう 5) コミュニケーションを組織する 6) 話し合いを深める

	10	授業を評価する	1) 授業における学習者の学びをとらえる 2) 目標に準拠して学習者の学びをとらえる
	11	授業を研究する	1) 授業を理解する 2) 授業を創造する
教師の学習と発達	12	教師の知識と思考	1) 教師の知識と思考の特徴 2) 教師の学習環境を整える
	13	教師の成長とライフ コース	1) 教師の職能発達と生涯発達

参考図書

1. 森敏昭, 藤江康彦, 白川佳子, 清水益治. 21 世紀の学びを創る : 学習開発学の展開. 北大路書房. 2015.
2. 秋田喜代美, 藤江康彦. 授業研究と学習過程. 放送大学教育振興会. 2010.
3. 佐藤学. 教育方法学. 岩波書店. 1996.

備考

授業科目	教育心理
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	30
担当講師	太田 信夫

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	教育心理
担当講師	太田 信夫
動画数	30

講義の概要

教育心理学の中核である「学習」と「発達」に関する心理学的知見を中心に講義する。学習については、現代心理学の潮流である認知主義の観点から、認知過程についてやや詳しく述べる。全体の講義を通して、昨今の教育における問題点を明らかにし、その解決に向けどのように対処すればよいかという視点から、講義者の考えの基に解説する。

講義の到達目標

1. 学習と発達に関連する理論や概念が理解できる。
2. 成長発達に伴う学習者心理の特徴が理解できる。
3. 学習過程における心理的特徴と教育方法が理解できる。
4. 学習者の反応や状況を心理学的に理解できる。

講義内容

大項目	中項目		内容
はじめに	1	教育心理学とは	1) 教育心理学とはどんな学問か ・ 本講義の内容と構成
学習	2	学習理論	1) 行動主義（連合論）と認知主義（認知論） ・ 人間性心理学の考え方
	3	条件づけ	1) 古典的条件づけとその応用 ・ 道具的条件づけとその応用
	4	認知論	1) 認知構造やネットワークモデルの変容 ・ 受容学習と発見学習
	5	種々の学習	1) 社会的学習と学習転移 ・ 社会文化的アプローチ
	6	動機づけ	1) 外発的動機づけと内発的動機づけ ・ 自律的動機づけ
	7	賞と罰	1) 賞罰の原理と効能 ・ 学習者の要求水準と自尊心
	8	学習意欲	1) 学習意欲のメカニズム ・ 達成動機と自己効力感
	9	意欲の喚起	1) 学習意欲の喚起の具体的方法 ・ 学習に関して現代教育への要望
発達	10	発達段階	1) 「生涯教育」という考え方 ・ 各発達段階の特徴と発達課題
	11	人格の発達	1) 道徳性、規範意識などの発達 ・ 自己意識の発達
	12	認知の発達	1) ピアジェの認知発達理論 ・ ことばと記憶の発達

	13	社会性の発達	1) 親子関係、仲間関係などの発達 ・ ソーシャルスキル、向社会性などの発達
	14	青年期の特性	1) 青年期における種々の特性 ・ 現代青年の問題点
	15	高齢期の特性	1) 高齢者（老年期）の諸機能の変化 ・ 日常生活における問題
認知過程	16	知識と理解	1) 複数記憶システムと学習 ・ 知識の獲得や理解過程のメカニズム
	17	記憶のメカニズム	1) 記憶の構造とプロセス ・ 忘却の理論
	18	記憶方略	1) 符号化特定性の原理 ・ 記憶の7つのエラー
	19	無意図的学習	1) 潜在学習と潜在記憶 ・ 自覚のない学習動機
	20	思考のメカニズム	1) 問題解決過程とその方略 ・ 創造的思考とその阻害要因
	21	勉強の方法	1) 学習内容定着の7つのルール ・ 勉強に有効ないくつかの「〇〇効果」
	22	技能の学習	1) 技能（スキル）学習のメカニズム ・ 技能学習の有効な学習法
	23	メタ認知	1) メタ認知の定義と役割 ・ メタ認知の教育への応用
学習指導	24	学習者の理解	1) 学習者理解の方法とその考え方 ・ カウンセリング的理解
	25	知能	1) 知能の定義、理論、測定法 ・ 情動（感情）知能、社会的知能など
	26	学力	1) 学力の定義とその測定法 ・ 国際学習到達度調査の結果
	27	授業	1) 学習理論と授業方法 ・ 各種授業形態およびアクティブラーニング
	28	指導と評価	1) 指導と評価の関係 ・ ささまざまな評価の方法
	29	適応・不適応	1) 集団における人間関係 ・ いじめ、不登校、非行、発達障害など
まとめ	30	学習・発達と現代社会	1) 人間性を基盤とした学習・発達 ・ 本講義全体のまとめ
参考図書 1. 太田信夫. 教育心理学概論. 一般財団法人放送大学教育振興会. 2009. 2. 藤田哲也. 絶対役立つ教育心理学 実践の理論, 理論の実践. ミネルヴァ書房. 2007.			
備考			

授業科目	教育評価
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	30
担当講師	松田 岳士

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	教育評価
担当講師	松田 岳士
動画数	30

講義の概要

受講者が教育評価の目的、機能、方法などによって整理された基本概念や、それぞれの評価の問題点を記憶し、重要な用語を体系的に選択できるようになることを目的とする。具体的な講義内容として、教育の目的や評価の観点に対応した評価の種類や基本的なテスト理論を説明し、学習者や学習成果を評価する際に考慮すべきポイントをまとめる。また、基本的な知識を実践につなげるための足掛かりとして、授業自体や教師を対象とした評価の意味や、インストラクショナルデザインの考え方も紹介する。

講義の到達目標

1. 評価における基本的な考え方を列挙し、評価を行うことによる問題点を指摘できる。
2. 教育評価の種類に応じた課題や留意点を体系的に分類できる。
3. 授業形態や授業の目標に応じた評価計画を立てるための基本的な知識を述べることができる。
4. 教員として自らの授業自体を評価する活動の具体例をあげるができる。

講義内容

大項目	中項目		内容
教育評価の基本概念	1	教育評価とは	1) 教育評価の諸定義と考え方の概要 2) 評価の対象と主体 3) 教育評価に共通する問題点
	2	相対評価と絶対評価	1) 相対評価 2) 絶対評価
	3	テスト理論の基礎	1) 妥当性と信頼性 2) 項目分析
教育の目的と評価の役割	4	教育目標の整理	1) 教育目標の種類 2) タキソノミー 3) 学力の要素と学習成果の関係
	5	教育評価の機能	1) 動機づけの評価 2) 学習者による評価の機能
	6	評価の実施段階と役割	1) 4つのタイミング・診断的评价 2) 形成的評価 3) 総括的评价
教育成果の測定・評価方法	7	知識・思考を評価する	1) 代表的な評価方法 2) 評価方法ごとの問題点
	8	パフォーマンスを評価する	1) ルーブリックとその課題 2) ポートフォリオの役割
	9	評価のためのデータ	1) 直接評価と間接評価 2) データの種類と問題点 3) デジタルデータの蓄積と教育ビッグデータ
教育活動自体の評価	10	授業の設計に反映される評価	1) インストラクショナルデザインとは 2) ギャップモデル

			3) イノベーションモデル
	11	授業の実施に反映される評価	1) 授業評価の3側面 2) 学習経験の評価
	12	教師・学校を対象とした評価	1) 教師としてのコンピテンシー 2) カリキュラム評価 3) 学習環境デザインと評価

参考図書

1. 梶田勲一. 教育評価[第2版補訂2版]. 有斐閣. 2010.
2. 池田央. テストの科学 試験にかかわるすべての人に. 日本文化科学社 1992.
3. 稲垣忠, 鈴木克明. 授業設計マニュアル 教師のためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房. 2011.

備考

授業科目	情報通信技術
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	36
担当講師	前田 樹海

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	情報通信技術
担当講師	前田 樹海
動画数	36
講義の概要	
<p>情報リテラシーの向上のため、情報社会に対応する基礎的知識及び看護師等養成所の組織運営に係る情報通信技術を学ぶ。</p>	
講義の到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育における ICT 活用の必要性や動向が理解できる。 2. 教育における ICT の機能や特徴が理解できる。 3. 教育における ICT 活用事例を通して、ICT 活用時の留意点や学習効果が理解できる。 4. ICT を活用した授業を推進する上で教員や学生に役立つ LMS の実際と導入のメリットが理解できる。 	

講義内容			
大項目	中項目		内容
ICT 活用の目的	1	ICT とは何か	1) 本科目の概要
	2	ICT 活用の必要性と動向	1) 通信の歴史 2) わが国における ICT の普及
教育における ICT	3	クラウドの教育利用	1) クラウドコンピューティング 2) クラウドサービス
	4	ネット資源の活用	1) ネット検索法 2) www とドメイン名
看護現場における ICT	5	看護情報学の歴史的発掘	1) 看護情報学とは
	6	データ・情報・知識	1) データ・情報・知識の定義 2) データ・情報・知識の関係
情報管理と情報倫理	7	セキュリティ	1) 情報セキュリティ 2) メールのヘッダ情報 3) パスワード 4) フィッシング詐欺
	8	個人情報保護法と医療（総論）	1) OECD8 原則 2) 個人情報の保護に関する法律
	9	個人情報保護法と医療（各論）	1) 医療・介護分野ガイダンス 2) オプトアウト
	10	情報倫理	1) 情報プライバシー 2) 看護師の守秘義務
効果的なデータ処理	11	入力技法	1) テンキー 2) ショートカットキー
	12	統計表の作成	1) 統計表の作成① 2) 統計表の作成②
	13	数式の基本	1) 数式の基本

			2) 数式作成の注意
	14	関数	1) 基本的な関数 2) 論理関数 IF 3) 論理関数 IF の応用
	15	アンケート分析	1) アンケート分析の基礎 2) ピボットテーブル
	16	単一グラフ	1) 単一グラフの基本① 2) 単一グラフの基本②
	17	複合グラフ	1) 複合グラフの基本① 2) 複合グラフの基本②
LMS の学校運営への活用	18	教育プラットフォームの活用事例	1) 「情報リテラシー」における Google Site / Form の活用事例
参考図書			
備考			

授業科目	看護論
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	30
担当講師	深井 喜代子、手島 恵

本科目の内訳は、以下のとおり。

科目内分野	担当講師	時間数	動画数
【1】健康論	深井 喜代子	11.5 時間	23
【2】看護の本質及び看護倫理	手島 恵	3.5 時間	7

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	看護論
担当講師	深井 喜代子、手島 恵
動画数	30

講義の概要

【健康論】中項目 1～8

健康を広い視座で捉え、看護ケアとしての健康支援の方法を理解する。WHO によるヘルスプロモーションの理念に基づくわが国の健康支援施策を知り、新たな健康課題に取り組む方略について学習する。

【看護の本質及び看護倫理】中項目 9～15

看護実践の基盤となる倫理にかかわる知識について学ぶとともに、看護実践における倫理的意識決定支援について理解する。

講義の到達目標

【健康論】中項目 1～8

1. 健康の概念を踏まえ、看護職が担う健康支援の理念と方法論が理解できる。
2. ヘルスプロモーション及びその視点を導入したわが国の保健医療福祉施策の概要が理解できる。
3. 広がる看護の対象と場に注目し、そこに生じる新たな課題が理解できる。

【看護の本質及び看護倫理】中項目 9～15

1. 看護実践の基盤となる倫理についての知識を理解する。
2. 倫理に関する知識をふまえ、倫理的意識決定を支援する方法を理解する。

講義内容

大項目	中項目		内容
健康の概念	1	健康の概念と定義	1) 正常と異常 (1) 内部環境とホメオスタシス (2) 生物学モデルからみた正常と異常 (3) 正常と健康 2) 健康認識 (1) 健康はどのように認識されるか (2) こころと病気 (3) 健康の役割 3) 健康の概念と定義 (1) WHO の健康の定義 (2) ヘルシズム (3) ウェルネスと健康 (4) QOL (5) ホリスティック・ヘルス 4) 看護的視座からの健康理論 (1) 自己実現論 (2) セルフケア理論 (3) 適応理論 5) 健康観のパラダイムシフト (1) ライフスタイルと健康観 (2) ヘルスプロモーション

	2	健康の構成要素と影響要因	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の構成要素と健康モデル <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康を構成する 5 つの要素 (2) 健康モデル 2) 健康の影響要因 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境と健康 (2) ライフスタイルと健康観 (3) セクシャリティと健康 3) 健康のリスク <ol style="list-style-type: none"> (1) ストレスと健康 (2) 社会に潜む健康問題 (3) 健康格差
ヘルスケアの方法	3	健康評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康評価 (1) <ol style="list-style-type: none"> (1) ヘルス・アセスメントと健康観 (2) フィジカル・イグザミネーション (3) メンタル・ステータス・イグザミネーション 2) 健康評価 (2) <ol style="list-style-type: none"> (1) 痛みのアセスメント (2) ウェルネス看護診断 (3) セルフケア能力
	4	ヘルスケアとウェルネスケア	<ol style="list-style-type: none"> 1) ヘルスケアの理念 <ol style="list-style-type: none"> (1) ニードとウォント (2) セルフケアとセルフヘルプ (3) パーソナルネットワーク (4) ソーシャルサポートネットワーク 2) ヘルスケアの方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) ストレスマネジメント (2) 管理・指導 (3) カウンセリング 3) ウェルネスケアの理念と方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) ウェルネス看護診断 (2) ウェルネスケアの方法
健康を保持・増進するための施策	5	健康支援の理念と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康支援の理念 <ol style="list-style-type: none"> (1) パイディアとしての健康 (2) ヘルス・リテラシー (3) ソーシャル・キャピタル 2) 健康支援の方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションとは (2) ヘルス・コミュニケーションの意義 (3) コミュニケーションと社会的規範 3) 健康支援の対象

			<ul style="list-style-type: none"> (1) 健常者から病者まで (2) 出生直後から終末期まで (3) 地域で生活するすべての人々
	6	健康支援の公的施策	<ul style="list-style-type: none"> 1) WHO による施策 <ul style="list-style-type: none"> (1) アルマ・アタ宣言から 2030 アジェンダまで (2) 健康都市プロジェクト 2) 欧米の施策 <ul style="list-style-type: none"> (1) ヘルシー・コミュニティ (2) ウェルネス・センター 3) わが国の施策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 健康日本 21 (第 1 次) (2) 健康日本 21 (第 2 次)
	7	健康支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> 1) ヘルスプロモーションの実際 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院での取り組み (2) 地域での活動 2) 健康行動と資源活用 <ul style="list-style-type: none"> (1) 健康行動 (2) 社会資源の健康活用 3) 健康教育 <ul style="list-style-type: none"> (1) 健康情報 (2) 学校健康教育 (3) 職域ヘルスプロモーション
健康論のまとめ	8	健康論のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 1) 健康論のまとめ <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護専門職にとっての健康の概念 (2) 看護が担うヘルスケアとヘルスプロモーション (3) エコヘルスとワンヘルス
看護実践の基盤となる倫理にかかわる知識	9	倫理とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 1) 倫理とは何か <ul style="list-style-type: none"> (1) 倫理 (2) 医療と倫理
	10	看護実践を支える倫理的基盤	<ul style="list-style-type: none"> 1) 看護実践を支える倫理的基盤 <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護実践における倫理的概念 <ul style="list-style-type: none"> ① アドボカシー ② 責務と責任 ③ 協力 ④ ケアリング
	11	職業倫理と倫理綱領・業務基準	<ul style="list-style-type: none"> 1) 職業倫理と倫理綱領・業務基準 <ul style="list-style-type: none"> (1) 職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ① 職業倫理とは何か ② 仕事と専門職の特長比較

			③ 専門職の実践 ④ 法律と倫理・道徳 (2) 倫理綱領・業務基準 ① 倫理綱領 ② 看護業務基準 (3) 臨床実習にかかわる倫理的問い
医療における倫理的 意思決定支援	12	患者中心の医療とは何か	1) 患者中心の医療とは何か (1) WHO, 保健医療 2035 (2) 患者中心とは何か (3) アスタナ宣言 ① プライマリーヘルスケア ② エンパワメント
	13	礼節	1) 礼節 (1) エンパワメントと礼節 (2) 倫理綱領にみる礼節
	14	倫理的意思決定と価値観	1) 倫理的意思決定と価値観 (1) 価値観の多様化 (2) なぜ価値観が重要なのか
	15	事例	1) 事例 (1) 患者中心とは (2) その人の文化的価値の尊重

参考図書

【看護論】中項目 1～8

1. Smith JA, 都留春夫ほか. 看護における健康の概念. 医学書院. 1997.
2. Stolte KM, 小西恵美子ほか. 健康増進のためのウェルネス看護診断. 南江堂. 1997.
3. 川上憲人, 橋本英樹, 近藤尚己. 社会と健康. 東京大学出版会. 2015.

【看護の本質及び看護倫理】中項目 9～15

1. 服部健司, 伊東隆雄. 医療倫理学のABC(第4版). メヂカルフレンド社. 2018.
2. 日本看護協会. 看護業務基準 (2016年度改訂版). 日本看護協会. 2016.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/index.html>
3. 日本看護協会. 看護師：主導する声：持続可能な開発目標 (SDGs) の達成 (抜粋和訳). 日本看護協会. 2017.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/katsudo/kangonohi.html>

備考

授業科目	看護教育・制度論
単位数	2 単位
時間数	30 時間
動画数	61
担当講師	古都 昌子、平河 勝美

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	看護教育・制度論
担当講師	古都 昌子、平河 勝美
動画数	61

講義の概要

【看護教育論】中項目 1～15

看護基礎教育に関連する用語を整理し、看護基礎教育の位置づけと、とりまく現状を理解するとともに、成人教育学の考え方にに基づき、成人学習者として学生をとらえ、教授活動における望ましい教員—学生関係のあり方を考察する。

看護基礎教育の教授活動に必要な理論的背景をふまえて、教員の役割や望まれる資質について事例を用いて考察することで、自己の学習者観、教育観をリフレクションし、資質向上に向けた課題を抽出する。

【看護教育制度】中項目 16～30

看護教育制度の歴史の変遷、現状と課題、今後の展望について学習する。

1. 看護教育制度史を“学校化”の歴史と捉え、看護を学校で教育することの本質を確認する。
2. 現行看護教育制度の制度的特徴や課題を多面的に検討する。
3. 生徒と教員の当事者性や主体性の観点から看護教育制度の今後を展望する。

講義の到達目標

【看護教育論】

1. 看護基礎教育に関連する用語を整理し、看護基礎教育の位置づけが理解できる。
2. 成人教育学の視点から学習者をとらえ、看護基礎教育における教授活動のあり方が理解できる。
3. 卒業時の到達目標をもとに、看護基礎教育と継続教育の関連性が理解できる。
4. 看護基礎教育の基本的考え方や、教育課程の構造が理解できる。
5. 看護基礎教育の内容や方法と評価の関連性が理解できる。
6. 看護実践能力と技術項目における卒業時の到達度の内容や考え方が理解できる。
7. 教員の役割や望まれる資質について理解できる。
8. 教員として資質向上していくための自己の課題が理解できる。

【看護教育制度】

明治前期からの看護教育制度の変遷を時代状況や社会状況に関係づけて理解する。

1. 学校教育の本質を踏まえ、看護を学校で教育することの意義や限界性を理解する。
2. 「指定規則」の検討などを踏まえ、現行看護教育制度の特徴や課題を多面的に理解する。
3. 歴史的な文脈や水平的展開についての理解をもとに、今後の看護教育制度について考察する。

講義内容

大項目	中項目	内容
看護基礎教育の位置づけ	1	看護教育に関連した用語 1) 看護基礎教育と継続教育 2) 生涯学習としての看護教育
	2	専門職としての看護学教育 1) 看護教育と看護学教育 2) 看護職は専門職か否か
成人教育学の視点からとらえる看護学生	3	看護学生との出会いと看護基礎教育 1) 「私」の体験談 2) 学生がもたらすもの
	4	学習者としての学生 1) 看護学生の発達

		理解	2) 学生のアイデンティティ形成
	5	成人教育学の理論を用いた教員—学生関係	1) 成人教育学における成人学習者の学生 2) 教員—学生関係の構築に向けて ミニ事例：関係構築の可能性
看護基礎教育における教授活動と評価	6	看護学教育課程の特徴と構造	1) 教育課程とは何か 2) 看護学教育課程の特徴と構造
	7	看護基礎教育の教授活動に用いる考え方	1) クリティカルシンキング 2) リフレクション
	8	看護基礎教育の教授活動に用いる理論の活用	1) 学習理論 2) エンパワメントと自己効力理論 3) 自己効力を高める支援（ミニ事例）
	9	教授活動と評価	1) 教授活動における評価の意義 2) 教授活動における教育の内容や方法と評価の関連
看護実践能力の育成を目指した教育	10	看護実践能力の要素と到達度	1) 卒業時に到達を目指す看護実践能力 2) 無資格者としての技術教育の考え方
	11	看護実践能力の育成	1) ヒューマンケア・倫理的実践の看護実践能力育成に向けた基盤形成 2) ヒューマンケア・倫理的実践能力の育成に向けた基盤形成—ミニ事例の検討—
教員としての成長	12	教員としての役割や望まれる資質	1) 看護教員の資質・能力 2) 教員としての「読む・書く・話す」を見直す
	13	教員としての自己成長	1) 教員のキャリア・マネジメント 2) 教員としての自己成長を目指した組織的にかかわり
	14	学生とともに学ぶために	1) 学生とともに学び育つ 2) 看護学生のリアリティに寄り添う
	15	教員としての資質向上に向けて	1) 教員としての資質向上に向けての課題抽出とアクションプラン—ミニ事例の検討—
教育制度と“学校”	16	教育制度の根幹“学校”	1) 制度の本質 2) 教育制度の根幹としての“学校” 3) 学校の成立過程と本質
看護教育制度の歴史の変遷	17	明治前期～中期 [看護教育の誕生①]	1) 看護教育の学校化 2) 看護学校の設立経緯とその後の存廃状況
	18	明治前期～中期 [看護教育の誕生②]	1) 私立看護学校の増加に伴う教育の質的变化 2) 「産婆規則」による産婆教育の全国統一化
	19	明治後期～大正期 [看護教育の確立①]	1) 「産婆規則」改正による無試験認定の導入 2) 「私立産婆学校産婆講習所指定規則」の指定水準と“指定校”の意義

	20	明治後期～大正期 [看護教育の確立②]	1) 「看護婦規則」による看護婦教育の統一化 2) 「私立看護婦学校看護婦講習所指定標準ノ件」の指定水準
	21	戦前・戦中期 [看護教育の解体]	1) 戦時における看護教育の水準低下 2) 保健婦教育の開始と改変
	22	占領期 [看護教育の改革]	1) GHQ 看護課による看護教育刷新の試み 2) 「保健婦助産婦看護婦法」にもとづく看護教育制度の改革
	23	昭和期 [看護教育の水平的拡張]	1) 「保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則」改定の趣旨と規定内容の変遷 2) 看護教育を行う学校種の水平的拡張
	24	平成期 [看護教育の垂直的拡張]	1) 規定の柔軟化と教育内容の専門分化・統合化 2) 看護教育を行う学校種の垂直的拡張
現行看護教育制度の特徴と課題	25	看護師等学校養成所の体系	1) 看護師等学校養成所の体系と法令的背景 2) 「指定規則」の特徴と意義
	26	看護教育の現場的課題	1) 看護教員のしごとの複雑性 2) 教育現場にかかわる教育条件整備
	27	看護者の生涯学習制度	1) 看護者の生涯学習とリカレント型学習 2) おとなの学習権とその保障
	28	他国における看護教育制度	1) 英国 2) アメリカ合衆国
看護教育制度の将来展望	29	看護教員の専門職性	1) 看護教員養成制度の特徴と課題 2) 看護教員の専門職性と教育権
	30	今後の看護教育制度への意思	1) 看護教育制度への参加 2) 時代状況、地域社会などとの対話的拡張

参考図書

【看護教育論】

1. 天野正輝. 発達と教育の本質 教育の基礎理論. 文化書房博文社. 1987.
2. パトリシア ベナー, 早野 ZITO 真佐子ほか. ベナーナースを育てる. 医学書院. 2011.
3. 舟島なをみ. 看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて. 医学書院. 2013.
4. 古都昌子, 鈴木佳代. 看護教育, Vol160 No.4, 学生の存在をともに学び育つ仲間としてとらえ直す. 医学書院. 2019.
5. 古都昌子. 看護教育, Vol158 No.8, 教員という立場から、自ら学んだ「読む. 書く. 話す」を見直す. 医学書院. 2017.
6. 古都昌子. 看護職生涯発達学の視座からの看護基礎教育における学生のとらえ. 東京女子医科大学看護学会誌, Vol11 No.1, p 43-48. 2016.
https://twinkle.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=23827&item_no=1&page_id=49&block_id=53
7. 古都昌子. 人間存在を尊重した看護実践を顕在化させたカリキュラム開発. 厚生労働省幹部看護教員

養成課程 看護学教育課程開発修了論文. 2009.

8. 服部祥子. 生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために(第2版), p2. 医学書院. 2010
9. 梶田叡一. 教育評価(第2版補訂版), p82. 有斐閣双書. 2005.
10. 厚生労働省医政局. 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン. 2015.
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc1593&dataType=1
11. グレック美鈴, 池西悦子. 看護教育学(改訂第2版) 看護を学ぶ自分と向き合う, p232. 南江堂. 2018.
12. 目黒悟, 永井睦子. 看護の学びを支える授業デザインワークブック 実りある院内研修・臨地実習・講義・演習に向けて. メヂカルフレンド社. 2013.
13. 文部科学省高等教育局. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告. 2011.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf
14. 中井俊樹, 服部律子. 授業設計と教育評価, p11. 医学書院. 2018.
15. 中井俊樹ほか. 看護現場で使える教育学の理論と技法. MC メディカ出版. 2014.
16. 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子. 看護教育における授業設計(第4版). 医学書院. 2009.
17. 杉森みど里, 舟島なをみ. 看護教育学(第6版). 医学書院. 2016.
18. 田島桂子. 看護学教育評価の基礎と実際 看護実践能力育成の充実に向けて(第2版), p32. 医学書院. 2013.
19. ウィーデンバック・A(1969), 都留伸子ほか. 臨床実習指導の本質 看護学生援助の技術. 現代社. 1974
20. 柳田邦男, 陣田泰子, 佐藤紀子. その先の看護を変える気づき. 医学書院. 2011.

【看護教育制度論】

1. 盛山和夫. 制度論の構図. 創文社. 1995
2. 金子光. 初期の看護行政—看護の灯たかくかかげて. 日本看護協会出版会. 1992.
3. 平尾真智子. 資料にみる日本看護教育史. 看護の科学社. 1999.
4. 看護行政研究会. 2019年版看護六法. 新日本法規. 2019.
5. グレック美鈴, 池西悦子. 看護教育学(第2版) 看護を学ぶ自分と向き合う. 南江堂. 2018.

備考

授業科目	看護教育課程論
単位数	3 単位
時間数	45 時間
動画数	85
担当講師	川口 賀津子、石束 佳子、齋藤 裕子、水方 智子、大谷 弘恵、 四俣 芳子、佐保 美奈子

本科目の内訳は、以下のとおり。

科目内分野	担当講師	時間数	動画数
教育課程展開	川口 賀津子	28.5 時間	57
領域横断	石束 佳子	4.5 時間	4
基礎看護学	川口 賀津子	1.5 時間	3
地域・在宅看護論	齋藤 裕子	1.5 時間	3
成人看護学	水方 智子	1.5 時間	3
老年看護学	大谷 弘恵	1.5 時間	3
小児看護学	四俣 芳子	1.5 時間	3
母性看護学	佐保 美奈子	1.5 時間	3
精神看護学	石束 佳子	1.5 時間	3
看護の統合と実践	齋藤 裕子	1.5 時間	3

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	看護教育課程論
担当講師	川口 賀津子、石東 佳子、齋藤 裕子、水方 智子、大谷 弘恵、四俣 芳子、佐保 美奈子
動画数	85

講義の概要

【教育課程展開】中項目 1～15

教育課程は学習者の学習体験を創造し、学校の教育活動の中核に位置する。看護基礎教育に求められる教育課程は、時代、医療の変化に応じて変化するため、各施設の理念に基づき常に検討し時代に即した看護職の育成を目指さなければならない。本科目では、看護教育課程の編成に関する基礎的な知識を学ぶ。

【領域横断】中項目 16～19

カリキュラム評価で明確になった課題や社会のニーズを踏まえ、柔軟なカリキュラム開発の一方法として、指定規則に定められた領域を横断するカリキュラムの意義とその実際を学ぶ。

【基礎看護学】中項目 20

看護基礎教育における基礎看護学の位置づけと構造を学ぶ。

【地域・在宅看護論】中項目 21、22

看護基礎教育における地域・在宅看護論の位置づけと構造を学ぶ。

【成人看護学】中項目 23、24

看護基礎教育における成人看護学の位置づけと構造について学ぶ。

【老年看護学】中項目 25、26

看護基礎教育における老年看護学の位置づけと構造について学ぶ。

【小児看護学】中項目 27

看護基礎教育における小児看護学の位置づけと構造を学ぶ。

【母性看護学】中項目 28

看護基礎教育における母性看護学の位置づけと構造を学ぶ。

【精神看護学】中項目 29

看護基礎教育における精神看護学の位置づけと構造を学ぶ。

【看護の統合と実践】中項目 30

看護基礎教育における「看護の統合と実践」の位置づけと構造を学ぶ。

講義の到達目標

【教育課程展開】中項目 1～15

1. 教育課程に関する基礎的な知識が理解できる。
2. 看護基礎教育の特徴と看護教育課程との関連が理解できる。
3. 社会のニーズにこたえる保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正の変遷が理解できる。
4. 地域の特性や看護師養成所の設立趣旨を反映した特徴ある教育課程編成の意義が理解できる。
5. 看護教育課程編成の体系的なプロセスが理解できる。
6. 各専門領域の看護教育課程の特徴が理解できる。
7. 看護教育課程編成におけるカリキュラムデザインが理解できる。
8. 看護教育課程の評価の意義とその方法が理解できる。

【領域横断】

1. カリキュラム評価を踏まえた、領域横断型カリキュラムの意義と教育効果について理解できる。
2. 領域横断型カリキュラムの開発プロセスについて理解できる。

【基礎看護学】

1. 看護基礎教育における基礎看護学の位置づけと構造が理解できる。

【地域・在宅看護論】

1. 看護基礎教育における「地域・在宅看護論」の位置づけと構造が理解できる。
2. 看護の対象が「地域で生活する人々とその家族」となり健康レベルが拡大した背景を理解できる。

【成人看護学】

1. 看護基礎教育における成人看護学の位置づけと構造が理解できる。

【老年看護学】

1. 看護基礎教育における老年看護学の位置づけと構造が理解できる。

【小児看護学】

1. 小児看護学の位置づけと構造が理解できる。
2. 領域横断科目との関連性とその学習効果を理解できる。

【母性看護学】

1. 母性看護学教育課程の基本的な理解を深め、母性看護学の授業展開の方略を理解できる。
2. 教育対象である青年期学生への必要な配慮やケアについて理解できる。

【精神看護学】

1. 看護基礎教育における精神看護学の位置づけとその構築が理解できる。

【看護の統合と実践】

1. 看護基礎教育における「看護の統合と実践」の位置づけと構造を理解できる。

講義内容

大項目	中項目	内容
教育課程とは	1 教育課程の基礎的知識	1) 教育課程の語源 2) 教育課程の定義 3) 教育課程の次元 4) 基準カリキュラムと実践カリキュラム 5) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 6) 教育課程の内部要素 7) 教育課程の外部要因 8) 教育課程の類型 9) 教科活動と教科外活動 10) 教育理念・教育目的・教育目標 11) 学年制と単位制 12) 看護教育における授業形態 13) 授業科目と単元
看護基礎教育の特徴と教育課程との関連	2 看護教育制度と法	1) 看護教育制度と法との関連
	3 看護基礎教育の特徴	1) 看護師養成教育の位置づけ 2) 看護基礎教育の定義と内容 3) 看護継続教育の定義と内容 4) 現看護教育制度の現状と課題

	4	保健師助産師看護師学校養成所指定規則	1) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則とは
	5	指定規則改正による教育内容の変遷	1) 昭和42年・平成元年改正の内容 2) 平成8年・平成20年改正の内容 3) 第5次指定規則の改正の動き
	6	看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて	1) 「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて」とは 2) 指導ガイドライン1～5 3) 指導ガイドライン6-① 4) 指導ガイドライン6-② 5) 指導ガイドライン7～9 6) 看護師教育の基本的考え方と留意点
	7	看護実践力能力における卒業時の到達目標	1) 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標
	8	看護技術における卒業時の到達度	1) 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度
特徴ある教育課程編成の意義	9	育成したい看護師像	1) 社会が求める看護職 2) 看護師養成所(3年課程)の特徴
看護教育課程編成の考え方とプロセス	10	看護教育課程編成の考え方とプロセス	1) 看護教育課程における教育理念・教育目的・教育目標 2) 看護教育課程編成の考え方 カリキュラム過程の4段階 3) 看護教育課程編成のプロセス 教育理念から評価まで
看護教育課程編成の実際	11	カリキュラム過程－方向づけ段階	1) 教育理念の記述 2) 主要概念と概念間モデル 3) 理論的枠組み① 4) 理論的枠組み② 5) カリキュラム過程方向づけ段階のまとめ
	12	カリキュラム過程－形成段階	1) 教育内容の選択 (Scope) 看護基礎教育で修得すべき内容 2) 教育内容の組織化 (Sequence) 教育内容のまとめりと配列 3) カリキュラムデザイン 4) レベル目標 5) 教科目標 6) 内容配置図 7) 教科の概要

	13	カリキュラム過程－ 機能段階	<ol style="list-style-type: none"> 1) 内容へのアプローチ① 2) 内容へのアプローチ② 3) 教授方法と学習経験 4) 学習の有効性の証明 5) シラバスの作成と活用 6) 教科目全体の年間計画・時間割
	14	カリキュラム過程－ 評価段階	<ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム評価の意義 2) インプット・スループット・アウトプット 3) カリキュラム評価のシステム設定
	15	看護教育課程編成の 課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護基礎教育の教育課程に関する課題
領域横断型 カリキュラム	16	領域横断型 カリキュラムの開発 過程	<ol style="list-style-type: none"> 1) 領域横断型カリキュラムとは 2) カリキュラム評価 3) 卒業時の到達目標に関する目標分析 4) 領域横断型カリキュラムの設定の根拠
	17	領域横断型カリキュ ラムの実際	<ol style="list-style-type: none"> 1) 領域横断型カリキュラムの設定方法 2) 領域横断型カリキュラムのシラバス作成 3) 領域横断型カリキュラム(実習)の設定例 4) 領域横断型カリキュラムの評価等
	18	領域横断型 カリキュラムの意義	<ol style="list-style-type: none"> 1) 領域横断型カリキュラムの必要性 2) 領域横断型カリキュラムの意義
領域横断型 カリキュラムの開 発	19	領域横断型カリキュ ラムの開発	<ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム編成の理解(復習) 2) 領域横断型カリキュラムの創出
基礎看護学	20	看護基礎教育におけ る基礎看護学の位置 づけと構造	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護基礎教育における基礎看護学の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1) 「基礎看護学」の意味 (2) 科目構成からみた位置づけ (3) カリキュラムからみた位置づけ (4) 看護師国家試験出題基準からみた位置づけ 2) 基礎看護学の構造 <ol style="list-style-type: none"> (1) 履修学年および対象者 (2) 基礎看護学の役割 (3) 基礎看護学における教育内容と方法 3) 基礎看護技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎看護技術とは (2) 基礎看護技術の授業内容と方法

地域・在宅看護論	21	カリキュラム構築の考え方	<ol style="list-style-type: none"> 1) 目指す社会は地域共生社会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域看護と在宅看護の関係性 (2) 病院完結型（治す医療）から地域完結型（治し支える医療）へ (3) 地域包括ケアシステムとは (4) 自助・互助・共助・公助の4つの支え (5) 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 2) 地域で看護するとは <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護の対象は地域で生活する人々とその家族 (2) 地域住民の暮らしのアセスメント (3) 生活の場の多様化（住まいと住まい方） (4) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割 (5) 訪問看護ステーションの看護職の役割
	22	臨地実習で包括的に学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・継続看護が見える臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自治会、公民館、いきいきサロン、生活支援コーディネーター (2) 地域包括支援センター (3) 診療所・クリニック（かかりつけ医） (4) 地域連携室・入退院支援室 (5) 訪問看護ステーション (6) 高齢者賃貸住宅、介護施設
成人看護学	23	看護基礎教育における成人看護学	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護基礎教育における成人看護学の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成人の意味 (2) 「成人看護学」の意義 2) 看護基礎教育における成人看護学の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1) 科目構成からみた位置づけ (2) カリキュラムからみた位置づけ (3) 学生のレディネスからみた位置づけ (4) 看護学分野からみた位置づけ
	24	成人看護学の構築	<ol style="list-style-type: none"> 1) 成人看護学の構造と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 履修学年および対象者 (2) 成人看護学の構造 (3) 成人看護学における教授内容 (4) 成人看護学における教育方法 (5) 成人看護学における評価
老年看護学	25	看護基礎教育における老年看護学	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護基礎教育における老年看護学の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年の意味 (2) 「老年看護学」の意義 2) 看護基礎教育における老年看護学の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1) 科目構成からみた位置づけ

			<ul style="list-style-type: none"> (2) カリキュラムからみた位置づけ (3) 学生のレディネスからみた位置づけ (4) 看護学分野からみた位置づけ
	26	老年看護学の構築	<ul style="list-style-type: none"> 1) 老年看護学の構造と評価 <ul style="list-style-type: none"> (1) 履修学年および対象者 (2) 老年看護学の構造 (3) 老年看護学における教授内容 (4) 老年看護学における教育方法 (5) 老年看護学における評価
小児看護学	27	小児看護学の位置づけと構造	<ul style="list-style-type: none"> 1) 看護基礎教育における小児看護学の位置づけと特徴 <ul style="list-style-type: none"> (1) 小児看護学の位置づけ (2) 小児看護学の特徴(小児看護学で大切にしたいこと) (3) 教育目的・教育目標の設定 2) 小児看護学の構造 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育内容の組織化 (2) 教育内容の具体的事例 3) 領域横断科目との関連性 <ul style="list-style-type: none"> (1) 領域横断科目との関連性 (2) 領域横断科目の中の小児看護学の実際とその効果
母性看護学	28	母性看護学教育課程と教育方法の理解	<ul style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の基盤となる概念 <ul style="list-style-type: none"> (1) 母性看護の中心概念 (2) 母性看護実践を支える概念 (3) リプロダクティブヘルスに関する概念と動向 2) 母性看護学の具体的な授業展開 <ul style="list-style-type: none"> (1) 母性看護学の講義・演習の進め方 (2) 母性看護学実習の進め方 (3) 学習上の性差への配慮 3) 母性看護学担当教員に求められること <ul style="list-style-type: none"> (1) 性の多様性理解への啓発とカウンセリング (2) 予期せぬ妊娠・性感染症予防啓発とカウンセリング (3) デートDV 予防啓発とカウンセリング

精神看護学	29	看護基礎教育における精神看護学の位置づけと構造	1) 看護基礎教育における精神看護学の位置づけ (1) 精神科医療を取り巻く状況 (2) 精神看護とは (3) 精神看護学の基本的考え方 (4) 精神障害をもつということ (5) 精神看護が目指すもの 2) エビデンスにもとづく精神看護 (1) 精神看護のメタパラダイムについて (2) 治療的人間関係について 3) 精神看護学の科目構築の具体例 (1) 精神看護学の目的・目標・科目構造 (2) 精神看護学の教育内容
看護の統合と実践	30	カリキュラム構築の考え方	1) 「看護の統合と実践」の概要 (1) 「看護の統合と実践」導入の経緯 (2) 「統合分野」の考え方 (3) 「総合」と「統合」概念のイメージ (4) 「看護の統合と実践」の考え方 (5) 「看護の統合と実践：実習」の考え方 (6) 専門職連携教育について 2) 科目の具体例 (1) 看護管理の概要 (2) 災害看護の概要 (3) 国際看護の概要 3) 統合する力を高める実習・演習の具体例 (1) 急性期病院における統合実習の実際 (2) 多職種連携教育研修の実際 (3) 急変時シミュレーションの実際

参考図書

【教育課程展開】

1. 山田恵吾, 藤田祐介ほか. 教育課程を学ぶ. ミネルヴァ書房. 2019.
2. 安彦忠彦. カリキュラム開発で進める学校改革. 明治図書. 2003.
3. グレグ美鈴, 池西悦子. 看護教育学(改訂第2版) 看護を学ぶ自分と向き合う. 南江堂. 2009.
4. 杉森みど里, 舟島なをみ. 看護教育学(第6版). 医学書院. 2016.
5. 小山真理子. 看護教育のカリキュラム. 医学書院. 2003.
6. Gertrude Torres, 小山真理子ほか, 看護教育カリキュラム その作成過程. 医学書院. 1988.
7. 池西静江, 石束佳子. 看護教育へようこそ. 医学書院. 2015.
8. 古橋洋子. 看護教員ハンドブック. 医学書院. 2013.
9. 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子. 看護教育における授業設計(第4版). 医学書院. 2009.
10. 山田里津. 最新看護学教育ガイダンス(第2版). 医歯薬出版株式会社. 1998.
11. 看護師に求められる看護実践能力と卒業時の到達目標. 厚生労働省 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. 2011年2月28日.

- https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_127329.html (最終閲覧日:2019年11月4日)
12. 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度(案). 厚生労働省 第7回看護基礎教育検討会 参考資料1. 2019年1月30日
- https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_544319.html (最終閲覧日:2019年11月4日)
13. 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 各都道府県知事あて厚生労働省医政局長通知(平成27年3月31日)
- https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc1593&dataType=1 (最終閲覧日:2019年11月4日)
14. カリキュラム評価・開発ガイドブック. 看護展望7月号, Vol.44, No.9. メヂカルフレンド社. 2019.
15. 未来をみすえたカリキュラムを考える. 看護展望2月号, Vol.60, No.2. メヂカルフレンド社. 2019.
- 【領域横断】**
1. 池西静江, 石束佳子, 藤江康彦. 学習指導案ガイダンス. 医学書院. 2019.
2. 池西静江, 石束佳子. 看護教育へようこそ. 医学書院. 2015.
3. 池西静江, 石束佳子. 臨地実習ガイダンス 看護学生が現場で輝く支援のために. 医学書院. 2017.
- 【基礎看護学】**
1. 杉森みどり, 舟島なをみ. 看護教育学(第6版). 医学書院. 2016.
2. 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子. 看護教育における授業設計(第4版). 医学書院. 2009
3. 山田里津. 最新看護学教育ガイダンス(第2版). 医歯薬出版株式会社. 1998.
4. 池西静江, 石束佳子, 藤江康彦. 学習指導案ガイダンス看護教育を深める授業づくりの基本伝授. 医学書院. 2019.
- 【地域・在宅看護論】**
1. 病院と訪問看護ステーションの連携を一步進める. 看護展望8月号, Vol.43, No.10. メヂカルフレンド社. 2018.
2. 地域包括ケアに向けた教育ってなに?. 看護教育, Vol.60, No.3. 医学書院. 2019.
3. 地域包括ケアシステム時代の相談支援とソーシャルワーク. 保健の科学, Vol.5912月号. 杏林書院. 2017.
4. アドバンス・ケア・プランニング推進チームの活動. 看護展望9月号, Vol.43, No.11. メヂカルフレンド社. 2018.
- 【成人看護学】**
1. 安酸史子, 鈴木純恵, 吉田澄恵編. ナーシング・グラフィカ 成人看護学(3):セルフマネジメント(第3版). メディカ出版. 2015.
2. 林直子, 鈴木久美ほか. 成人看護学 成人看護学概論(改訂第2版). 南江堂. 2014.
- 【老年看護学】**
1. 正木治恵, 真田弘美. 老年看護学概論(改訂第2版). 南江堂. 2016.
- 【小児看護学】**
1. 杉森みどり, 舟島なをみ. 看護教育学(第6版). 医学書院. 2016.
2. 池西静江. 地域のニーズを反映した柔軟なカリキュラム開発. 看護教育, Vol.60, No2, pp.100-107. 2019.
3. 筒井真優美. これからの小児看護一子どもと家族の声が聞こえていますか-. 南江堂. 1998.
4. 奈良間美保ほか. <系統看護学講座 専門II>小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論. 医学書院. 2015.
5. 奈良間美保ほか. <系統看護学講座 専門II>小児看護学[2] 小児臨床看護各論. 医学書院. 2015.

【母性看護学】

1. 中込さと子, 小林康江, 荒木奈緒. ナーシング・グラフィカ 母性看護学(1): 概論・リプロダクティブヘルスと看護. メディカ出版. 2019.
2. 小林康江, 中込さと子, 荒木奈緒編. ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2): 母性看護の実践. メディカ出版. 2019.
3. 森恵美, 高橋眞理ほか. ≪系統看護学講座 専門分野Ⅱ≫母性看護学[1] 母性看護学概論(第13版). 医学書院. 2016.
4. 森恵美, 高橋眞理ほか. ≪系統看護学講座 専門分野Ⅱ≫母性看護学[2] 母性看護学各論(第13版). 医学書院. 2016.

【精神看護学】

1. 武井麻子, 江口重幸ほか. ≪系統看護学講座 専門分野Ⅱ≫精神看護学[1] 精神看護の基礎(第5版). 医学書院. 2017.
2. 武井麻子, 末安民生ほか. ≪系統看護学講座 専門分野Ⅱ≫精神看護学[2] 精神看護の展開(第5版). 医学書院. 2017.
3. 前田重治. 図説臨床精神分析学. 誠信書房. 1985.
4. アニタ W. オトゥール, 池田明子ほか. ペプロウ看護論 看護実践における対人関係理論. 医学書院. 1996.
5. 松木邦裕. 対象関係論を学ぶ クライン派精神分析入門. 岩崎学術出版社. 1996.
6. 坂野雄二. [特別企画]認知行動療法, こころの科学 121号. 日本評論社. 2005.

備考

授業科目	看護教育方法論
単位数	6 単位
時間数	90 時間
動画数	180
担当講師	野崎 真奈美、寺岡 三左子、鈴木 小百合、永野 光子

本科目の内訳は、以下のとおり。

科目内分野	担当講師	時間数	動画数
【1】看護教育方法の基盤	野崎 真奈美	30 時間	60
【2】技術習得における指導方法	寺岡 三左子 鈴木 小百合	30 時間	60
【3】看護学実習における指導方法	永野 光子 野崎 真奈美 寺岡 三左子 鈴木 小百合	30 時間	60

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	看護教育方法論【1】看護教育方法の基盤
担当講師	野崎 真奈美
動画数	60
講義の概要	
<p>授業を構成し実践する能力を養うために、看護学教育における教授・学習過程に関する基礎的理論を理解し、授業の具体的な展開方法を学ぶ。看護教育方法演習で発展的に活用するための実践方法について学ぶ。看護教育で応用できる視聴覚教育の知見と教材作成に関する理論を理解し、具体的な活用方法を学ぶ。</p>	
講義の到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護基礎教育における授業の特徴が理解できる。 2. 教育目標の構造が理解できる。 3. 学習目標に応じた授業形態の特徴が理解できる。 4. 看護基礎教育の教材と教育内容との関連が理解できる。 5. 単元の指導計画を導く方法が理解できる。 6. 教員の用いる授業技術の種類と活用方法の要点が理解できる。 7. アクティブラーニングの特徴や効果が理解できる。 8. 視聴覚教材教具の活用方法及び作成方法が理解できる。 9. 学生の思考力を培う教育方法の考え方と展開方法が理解できる。 10. 教員の教育実践力を向上させる意義が理解できる。 	

講義内容			
大項目	中項目		内容
看護基礎教育における授業の特徴	1	授業の構造	1) 本講義の概要 2) 看護基礎教育に用いられる授業形態 3) 授業成立の要件
	2	授業における教員の役割	1) 教員の役割・機能と授業技術 2) 発問 3) 教材化
	3	教育目標の構造	1) ブルームの教育目標分類 2) ルーブリック
学習目標に応じた授業方法	4	授業形態の特徴	1) 講義 2) 演習 3) 実習
	5	授業方法の特徴	1) 講義法 2) アクティブラーニング
	6	教員の裁量	1) 授業方法の選択 2) しかけづくり
単元の指導計画の作成	7	授業設計の過程	1) 広義の授業設計 2) カリキュラムと単元の関連
	8	指導計画（指導案）	1) 指導計画（指導案）とは 2) 指導計画（指導案）作成の意義

			3) 指導計画（指導案）の構成要素 4) 指導計画（指導案）の形式
	9	指導計画（指導案）作成過程の概要	1) 単元の位置づけの計画化～評価計画
	10	指導計画の作成過程① 授業目標の設定	1) 単元の位置づけの明確化 2) 単元の指導目標の設定
	11	指導計画の作成過程② 授業内容の決定	1) 単元の教育内容の構造化 2) 教材研究
	12	指導計画の作成過程③ 学習者の実態把握	1) レディネス 2) 学習意欲・動機づけ
	13	指導計画の作成過程④ 展開方法の検討	1) 授業目標と授業方法の選択 2) 導入、展開、まとめ 3) 時間配分と予想される学生の反応
	14	指導計画の作成過程⑤ 教材教具の作成	1) 主教材と補助教材 2) 配布資料、ワークシート、教科書 3) さまざまな教材
	15	指導計画の作成過程⑥ 評価計画の立案	1) 到達度の評価と運営の評価 2) 授業評価とリアクションペーパー 3) 評価結果に基づく授業の改善
授業展開・実施	16	講義実施上のポイント	1) 説明、発問、指示 2) 板書 3) プレゼンテーションソフトウェアによるスライド 4) 理解度のモニタリング 5) 授業中の配慮
アクティブラーニング	17	講義に適した協同学習	1) ラウンドロビン、シンク・ペア・シェア、ジグソー学習 2) 情報通信機器（ICT）を活用した方法
	18	アクティブラーニング運用上の注意事項	1) ファシリテーターマインド 2) 双子の過ち
	19	思考力を培う授業に向けて	1) ディープ・アクティブラーニング 2) 主発問、ゆさぶり発問
	20	視聴覚教育の意義	1) 視聴覚教育の変遷 2) 映像教材の作成 3) 映像教材活用時の注意事項
	21	動機づけを高める学習環境の整備	1) 授業方法に適した環境 2) 安心して挑戦できる雰囲気づくり
	22	教員からのフィードバック	1) フィードバックの種類と注意事項
教員の教育実践力の	23	授業を展開するための知	1) 授業内容についての知識

向上		識と技能	2) 授業方法についての技法
	24	学習者を理解するための知識	1) 学生の多様性と学習における特性
	25	評価するための知識と技能	1) 時期別教育評価と対象別教育評価、評価結果の活用 2) 成績評価と授業評価
	26	課題	1) 授業をとりまく課題

参考図書

1. 野崎真奈美, 水戸優子, 渡辺かづみ. 計画・実施・評価を循環させる授業設計(看護教育における講義・演習・実習のつくり方). 医学書院. 2015.
2. 中井俊樹, 小林忠資. 授業方法の基礎. 医学書院. 2017.
3. 鈴木克明監修, 市川尚・根本淳子編著. インストラクショナルデザインの道具箱 101. 北大路書房. 2016.
4. 特集 思考にきく発問看護教育. 看護教育. 58(4). 2017.
5. 松下佳代. ディープアクティブラーニング. 勁草書房. 2015.
6. 阿部幸恵. 看護基礎教育におけるシミュレーション教育の導入. 日本看護協会出版会. 2018.
7. 内藤知佐子, 伊藤和史. シミュレーション教育の効果を高めるファシリテーターSkills & Tips. 医学書院. 2017.
8. 佐藤昌宏. EdTechが変える教育の未来. インプレス. 2018.

備考

授業科目	看護教育方法論【2】技術習得における指導方法
担当講師	寺岡 三左子、鈴木 小百合
動画数	60

講義の概要

看護基礎教育における「演習」に関する授業・学習活動の理論を理解し、効果的な授業を展開するための具体的な教授方法を学ぶ。

教育目標に応じた演習の展開方法という観点から、学習効果を高める演習を展開するための理論と方法・実践的な演習、統合のための演習の実際と課題に区分し、論じる。各演習の授業構成の考え方と指導法についての基礎的知識を理解し、演習を効果的に展開するための方法と課題を学習する。

講義の到達目標

1. 学習効果を高める演習を展開するための理論と方法を説明できる。
2. 演習計画の立案と運用方法を説明できる。
3. 演習を効果的に展開する上での課題について説明できる。
4. 効果的な演習を展開する上で必要となる看護教員の役割とスキルを説明できる。

講義内容

大項目	中項目		内容
看護基礎教育における演習の位置づけ	1	本講義の概要 看護基礎教育における演習の位置づけ	1) 看護基礎教育における演習 2) 本授業の構成について
学習効果を高める演習を展開するための理論と方法	2	効果的な演習を展開するための前提	1) 学生の思考を刺激する発問 2) 臨床に近い状況の設定 3) リフレクション
	3	学生の主体性を引き出す教授方略①	1) 協同学習とは 2) 協同学習の基本要素と学習成果 3) 学生の参加を促す工夫 4) 授業の構造化
	4	学生の主体性を引き出す教授方略②	1) 協同学習の技法①：話し合いの技法 2) 協同学習の技法②：教え合いの技法
	5	学生の主体性を引き出す教授方略③	1) ジグソー学習法と特派員 2) ジグソー学習法を用いた技術演習
	6	学生の主体性を引き出す教授方略④	1) LTD 話し合い学習法 2) PBL (Problem Based Learning) 3) PBL テュートリアル教育の実際
	7	学生の主体性を引き出す教授方略⑤	1) TBL (Team-Based Learning) 2) TBL の原則と実践例 3) TBL の効果
	8	学生の主体性を引き出す教授方略⑥	1) プロジェクト学習とポートフォリオ 2) プロジェクト学習の導入と実践
	学習効果を高める実践的な演習の展開方	9	看護技術演習の目標
10		看護技術演習の内容	1) 演習内容の精選

法	11	看護技術演習の展開方法①	1) シミュレーション基盤型教育の考え方 2) シミュレーションにおける多様な学習ツールと教師の役割 3) シミュレーションシナリオデザインの構成
	12	看護技術演習の展開方法②	1) ICTの活用 2) e-ラーニング 3) ブレンディッドラーニング
	13	看護技術演習の展開方法③	1) インストラクショナルデザイン 2) リフレクション
	14	看護技術演習の展開方法④	1) 学生による患者体験① 2) 学生による患者体験②
	15	技術評価の方法①	1) 技術評価の考え方 2) 形成的評価
	16	技術評価の方法②	1) 統括的評価
学習効果を高める実践的な演習計画のプロセス	17	演習計画案の構成	1) 構成要素 2) 学習理論の活用
	18	演習計画案の作成①	1) 学習者と共有する学習目標の設定 2) 学習レディネスの確認
	19	演習計画案の作成②	1) 演習内容の吟味 2) 教材を含む学習資源の確認
	20	演習計画案の作成③	1) 教育方法の選択 2) 担当教員の役割確認と情報共有
	21	演習計画案の作成④	1) 学習者に対する評価方法の選択 2) 演習計画に対する評価方法の選択
	22	看護技術演習の実例①	1) タスク・トレーニング① 2) タスク・トレーニング② 3) 自己学習環境の整備
	23	看護技術演習の実例②	1) シチュエーションベースド・トレーニング① 2) シチュエーションベースド・トレーニング②
	24	臨床との連携の実例	1) 臨床看護師が参加する演習 2) 看護師集合研修における演習
統合のための演習の実際と課題	25	統合のための演習①	1) 看護の統合と実践
	26	統合のための演習②	1) OSCE (客観的臨床能力試験)
	27	統合のための演習③	1) SP (模擬患者) を活用した教育
	28	統合のための演習④	1) 多重課題演習と臨地実習との連関
	29	統合のための演習⑤	1) 臨床看護師との協働による演習の効果と課題
	30	まとめ	1) 効果的な授業実践において教員に求められる役割とスキル 2) 教員の教育力を高めるために

参考図書

1. 安永 悟. 活動性を高める授業づくり 協同学習のすすめ. 医学書院. 2012.
2. 野崎真奈美, 水戸優子, 渡辺かづみ. 計画・実施・評価を循環させる授業設計(看護教育における講義・演習・実習の作り方). 医学書院. 2015.
3. 特集 思考にきく発問看護教育. 看護教育. 58(4). 2017.
4. 阿部幸恵編著 看護のためのシミュレーション教育. 医学書院. 2013.
5. 鈴木克明監修, 市川尚・根本淳子編著. インストラクショナルデザインの道具箱 101. 北大路書房. 2016.
6. J.Mケラー著, 鈴木克明監訳. 学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン. 北大路書房. 2010.
7. 小林昭文, 鈴木達也, 鈴木映司. 現場ですぐに使えるアクティブラーニング実践. 産業能率大学出版部. 2015.
8. 伊達崇達. 自己調整学習の成立過程 学習方略の動機づけの役割. 北大路書房. 2009.
9. C.M.ライゲルース, A.A.カー・シェルマン編, 鈴木克明, 林雄介監訳. インストラクショナルデザインの理論とモデル 共通知識基盤の構築に向けて. 北大路書房. 2016.
10. 緒方巧 看護学生の主体性を育む協同学習. 医学書院. 2016.
11. E. F. Barkley, K. P. Cross, C. H. Major 著, 安永悟監訳. 協同学習の技法 大学教育の手引き. ナカニシヤ出版. 2017.

備考

授業科目	看護教育方法論【3】看護学実習における指導方法
担当講師	永野 光子、野崎 真奈美、寺岡 三左子、鈴木 小百合
動画数	60

講義の概要

授業の一形態である看護学実習について理解を深め、学生の実習目標の達成を支援するために必要な基礎的知識と教授活動について学ぶ。

講義の到達目標

1. 看護学実習の位置づけとその特徴を説明できる。
2. 看護学実習における教員の役割を説明できる。
3. 授業計画作成に必要な知識を活用し実習の授業計画案を作成できる。
4. 看護学を学ぶ学生の特徴に応じた実習指導について説明できる。
5. 看護学実習カンファレンスの特徴と教授活動を説明できる。
6. 看護学実習の評価の実際について説明できる。
7. 看護学実習に必要な倫理的配慮について説明できる。
8. 学生の実習目標達成を支援する教授活動について説明できる。

講義内容

大項目	中項目	内容
看護学実習の位置づけと特徴	1	看護基礎教育課程における臨地実習の位置づけ
	2	看護学実習の定義と特徴
	3	看護学実習における教材
看護学を学ぶ学生の理解	4	看護学を学ぶ学生の特徴
	5	学生が実習中に直面する困難
	6	看護学実習における学生の学習活動
看護学実習における教授活動	7	看護学実習における教授活動
	8	看護学実習における教員の役割

看護学実習における教授活動の実際	9	看護学実習に向けた準備	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学実習の流れ 2) 授業計画の立案 3) 目的・目標の設定 4) グループ編成・実習要項の作成 5) 授業案（指導案）の作成 6) 実習施設の確保・環境調整 7) 実習指導体制の充実 8) 実習施設・実習指導者との打ち合わせ
	10	実習指導者との連携	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学実習における実習指導者の役割 2) 実習指導者との連携
	11	実習オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーションの目的と内容
	12	受け持ち患者の決定	<ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の決定
	13	実習中の教授活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生の健康管理、身だしなみ、マナー 2) 計画調整 3) 学生が行う看護技術の基準 4) 援助の実施 5) 学習状況の把握とフィードバック 6) 実習記録の活用
	14	看護学実習中の事故防止対策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学実習中に起こりやすい事故 2) 看護学実習中の医療事故防止に向けた教員の教授活動 3) 看護学実習中の医療事故防止に向けた実習指導者の教授活動 4) 看護学実習中の災害対策
	15	学生の状況に応じた教員の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 指導が難しいと感じる学生への対応① 2) 指導が難しいと感じる学生への対応② 3) 指導が難しいと感じる学生への対応③
看護学実習カンファレンス	16	看護学実習カンファレンスとは	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学実習カンファレンスの定義
	17	看護学実習カンファレンスの特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学実習カンファレンスの特徴
	18	看護学実習カンファレンスにおける教授活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学実習カンファレンスにおける教授活動 2) 看護学実習カンファレンスの実際
看護学実習における倫理的配慮	19	看護学実習における倫理的配慮	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生の受け持ちとなる患者の権利擁護 2) 看護学実習における情報管理 3) 学生が戸惑った患者との関わり 4) 学生の権利擁護
看護学実習の評価	20	看護学実習における	<ol style="list-style-type: none"> 1) 評価の定義と種類

		評価活動	2) 看護学実習における評価 3) 学生の実習過程を評価する視点 4) 授業過程の評価 5) 学生が看護師の実習過程を評価する基準
	21	看護学実習の評価	1) 学習活動の評価 2) 教授活動の評価
看護学実習の展望	22	多様な臨地実習	1) サービス・ラーニング 2) インターンシップ
	23	看護学実習における指導方法	1) まとめ

参考図書

1. 杉森みど里, 舟島なをみ. 看護教育学 第6版. 医学書院. 2015.
2. 舟島なをみ監修. 看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて. 医学書院. 2013.
3. 舟島なをみ. 看護のための人間発達学 第3版. 医学書院. 2005.
4. M. H. Oermann 他, 舟島なをみ監訳. 看護学教育における講義・演習・実習の評価. 医学書院. 2009.
5. 舟島なをみ編集. 看護実践・教育のための測定用具ファイル 開発過程から活用の実際まで 第3版. 医学書院. 2015.
6. Knowles, M., 堀薫夫他監訳. 成人教育の現代的実践—ペダゴジーからアンドラゴジーへ, 38. 鳳書房. 2002.
7. 細谷俊夫他編, 新教育学大事典1, 「アンドラゴジー」の項, 79. 第一法規出版. 1990.
8. Bloom, B. S., et al., 梶田叡一他訳. 教育評価法ハンドブック. 第一法規出版. 1973.
9. 梶田叡一. 教育評価 第2版. 有斐閣双書. 205-206, 1993.

参考文献

1. 山田あゆみ. 看護学実習においてケア対象者となる患者の行動に関する研究. 看護教育学研究. 4(1), 18-37. 1995.
2. 中山登志子他. 看護学実習カンファレンスにおける教授活動. 看護教育学研究. 12(1), 1-14, 2003.
3. 廣田登志子, 舟島なをみ他. 実習目標達成に向けた教員の行動に関する研究—看護学実習における学生との相互行為場面に焦点を当てて. 看護教育学研究. 10(1), 1-14. 2001.
4. 小川妙子, 舟島なをみ. 看護学実習における教員の教授活動—学生と患者との相互行為場面における教員行動に焦点を当てて. 千葉看護学会会誌. 4(1), 54-60. 1998.
5. 吉富美佐江, 舟島なをみ他. 看護学実習における現象の教材化の解明. 看護教育学研究. 13(1), 65-78. 2004.
6. 山下暢子他. 看護学実習における学生行動の概念化. 看護教育学研究. 12(1), 15-28. 2003.
7. 山下暢子, 舟島なをみ, 中山登志子. 看護学実習中の学生が直面する問題—学生の能動的学修の支援に向けて—. 看護教育学研究. 27(1), 51-65. 2018.
8. 定廣和香子, 舟島なをみ, 松田安弘. 看護学実習中の医療事故防止に向けた教員の対策と実践. 看護教育学研究. 24(1), 41-55. 2015.

9. 定廣和香子, 舟島なをみ. 「実習安全のための教授活動自己評価尺度—看護学教員用—」の開発、—信頼性・妥当性の検証—. 看護教育学研究. 25(2), 10-11. 2016.
10. 上坂理紗, 永野光子. 臨地実習における看護学生間の関係性が学生個人に与える影響について. 第48回日本看護学会(看護教育)学術集会抄録集. 135. 2017.

備考

授業科目	看護教育評価論
単位数	2 単位
時間数	30 時間
動画数	60
担当講師	西岡 加名恵、糸賀 暢子

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	看護教育評価論
担当講師	西岡 加名恵、糸賀 暢子
動画数	60

講義の概要

- ・ 「教育評価とは何か？」という問いを切り口に、現代的な到達点に位置するパフォーマンス評価が登場・普及するに至った理論史を概観する。また、パフォーマンス評価の基本的な考え方と進め方、それを活かしたカリキュラム設計の在り方を学ぶ。
- ・ 実習・講義・演習の具体的な評価の事例を通して、なぜ看護基礎教育にパフォーマンス評価が必要なのかを学び、パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム設計の必要性を知る。

講義の到達目標

1. 教育評価とは何かを学ぶとともに、学力評価の規準と機能を知る。
2. 単元における目標と様々な評価方法との関係を知る。
3. 単元における評価計画の立て方の基本を知る。
4. 科目種（臨地実習、講義、演習）別の目標設定と評価計画の立て方を知る。
5. 評価を活かした指導の改善の在り方についてイメージをつかむ。
6. ポートフォリオ評価法の活用の仕方を知る。
7. カリキュラムの評価と改善の進め方についてイメージをつかむ。
8. パフォーマンス評価を実践する上での教師の力量形成の在り方を知る。

講義内容

大項目	中項目		内容
教育評価の目的	1	教育評価とは何か	1) 本科目の概要 2) 教育評価とは何か — 「測定」論から「評価」論へ— 3) 教育における評価活動 — 評価の目的・対象・主体—
	2	「目標に準拠した評価」の導入と展開	1) 学力評価に関わる政策の変遷 — 絶対評価, 相対評価, 個人内評価, 「目標に準拠した評価」— 2) 教育評価の3つの機能 — 診断的評価, 形成的評価, 総括的評価— 3) 看護教育における「目標に準拠した評価」の意義と課題
単元における目標と評価の関係	3	教育目標・評価論の展開	1) 教育目標の種類 2) パフォーマンス評価論の登場 3) 看護教育における目標・評価論の展開① — 行動目標のもつ問題点と総括的評価の課題— 4) 看護教育における目標・評価論の展開② — パフォーマンス評価とルーブリック—
	4	様々な評価方法①	1) 評価方法の分類

			<ul style="list-style-type: none"> 2) 看護教育における様々な評価の場面 —筆記テスト, 演習, 技術テスト, グループワーク, 実習— 3) 様々な筆記テストの問題 4) 看護教育における選択回答式(客観テスト式)の問題 —知識を網羅・確認するだけのテストから活用できる知識の確認へ—
	5	様々な評価方法②	<ul style="list-style-type: none"> 1) パフォーマンス課題とは何か 2) 看護教育におけるパフォーマンス課題の実践例 3) ポートフォリオ評価法とは何か 4) 看護教育におけるポートフォリオ評価法の実践例
単元の評価計画の立て方	6	「逆向き設計」論の基本	<ul style="list-style-type: none"> 1) 「知の構造」と評価方法の対応 2) 「本質的な問い」 3) 「永続的理解」 4) パフォーマンス課題のシナリオ 5) 評価基準(ルーブリック)の作り方 6) 「ミクロな設計」と「マクロな設計」との往還
科目種別の評価計画	7	実習科目の目標と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 1) 科目の位置づけ —教育理念と卒業生像, 期待する看護実践力— 2) 目標の明確化 —重点目標の設定, 現場で求められる看護, 患者・家族の視点から— 3) 評価方法 —「真正の評価」「指導と評価の一体化」と評価資料— 4) シラバスの具体 —明確なゴールと到達のための主体的・自律的・探究的学習, 自己評価の指標—
	8	講義科目の目標と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 1) 科目の位置づけ —臨地実習から遡って縦断する科目の「逆向き設計」(総合臨床看護)— 2) 目標の明確化 —臨床状況の中で活用する知識・スキル— 3) 評価方法 —パフォーマンス課題とシミュレーション場面の評価—

			4) シラバスの具体 —科目のねらいと意義, 講義スケジュールと評価—
	9	演習を含む科目の目標と評価方法	1) 科目の位置づけ —看護実践能力の土台の考え方, 基礎看護技術(排泄ケア)の位置づけ— 2) 目標の明確化 —手段(手順)と目標の区別— 3) 評価方法 —技術テスト, 手順のチェックとパフォーマンス評価の違い— 4) シラバスの具体 —技術をテストするパフォーマンス課題とルーブリック—
評価を活かした指導の改善	10	単元の指導過程	1) 単元の指導過程の展開 2) 指導方法の工夫 3) 演習を含む単元の指導過程の展開① —基礎看護技術(排泄ケア)の「本質的な問い」と「本時の主発問」の組み立て— 4) 演習を含む単元の指導過程の展開② —知識を活用・総合しながら理解を目指す指導過程の工夫—
	11	自己評価力を育てる指導	1) 自己評価の重要性 2) 検討会 3) 作品批評会 4) フィードバック
	12	看護教育における指導の工夫	1) 成人学習者の学びと評価と支援 —アンドラゴジーと看護教育— 2) シミュレーションの活用 —臨床場面に沿った指導過程とパフォーマンス評価— 3) 課題解決思考と探究的学習 —主体的・自律的学習の促進と自己評価力の育成— 4) リフレクションと「メタ認知」 —洗練された深い理解, 転移と「無知の知」—
ポートフォリオ評価法の活用	13	ポートフォリオ評価法	1) ポートフォリオの目的と設計 2) ポートフォリオ評価法の進め方 3) 講義・演習・臨地実習での活用のポイント —成功のコツと失敗に陥る罠—

			4) カリキュラム全体での活用 —長期的ルーブリックと指導, 保護者への説明責任を果たすポートフォリオ評価法の活用—
カリキュラムの評価と改善	14	カリキュラム評価	1) カリキュラムとは何か 2) カリキュラム評価の進め方 3) カリキュラム妥当性と一貫性 —自己点検・自己評価で何を評価するのか— 4) カリキュラムの再構築 —患者・家族の幸せの上に注ぐ眼から創るカリキュラム—
教師の力量形成	15	評価を活かした教師の力量形成	1) カリキュラム・マネジメントの重要性 2) 教員研修の工夫 3) パフォーマンス評価の展望と課題 —形式の鋳型にはめる教育からの脱却— 4) 看護教育・看護教員のミッション —看護教育不撓の原理, ナイチンゲールは古くない—
参考図書 1. 糸賀暢子, 元田貴子, 西岡加名恵著. 看護教育のためのパフォーマンス評価. 医学書院. 2017. 2. G. ウィギンス/J. マクタイ, 西岡加名恵訳. 理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法—. 日本標準. 2012. 3. 西岡加名恵. 教科と総合学習のカリキュラム設計—パフォーマンス評価をどう活かすか—. 図書文化. 2016.			
備考			

授業科目	看護学校組織運営論
単位数	1 単位
時間数	15 時間
動画数	30
担当講師	齊藤 茂子

認定の方法及び基準

単位認定テストにおいて、60%以上の正答率をもって合格とする。

授業科目	看護学校組織運営論
担当講師	齊藤 茂子
動画数	30

講義の概要

看護学校組織運営論では看護師等養成所の組織運営の基本を理解し、組織の構成員としての自己の役割を認識する。また、看護学校組織運営の根拠となる看護学校指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて学び法的な位置づけを理解する。さらに学校の自己点検・自己評価について理解し、積極的に参画する姿勢を養う。

講義の到達目標

■看護師等養成所の組織運営の特性と管理のあり方を学ぶ

1. 学校組織運営の基本が理解できる。
2. 保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインが理解できる。
3. 学校組織運営における教員の役割が理解できる。
4. 学校組織運営に係る資源管理（ヒト・モノ・カネ・情報）の基本が理解できる。
5. 学校組織運営の評価と今後の課題が理解できる。

講義内容

大項目	中項目		内容
学校組織運営の基本	1	学校組織運営の基本	1) 学校組織運営とは (1) 看護学校組織運営とは (2) 看護師養成教育を取り巻く法的根拠 (3) 所轄の行政機関
	2	看護師等養成所の学校組織運営におけるPDCA サイクル	1) 看護学校組織運営と PDCA (1) PDCA サイクルとは (2) 看護学校組織運営における PDCA サイクル (3) 看護学校組織運営の対象
保健師助産師看護師学校養成所指定規則と看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの理解	3	保健師助産師看護師学校養成所指定規則	1) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の基礎知識 (1) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則とは (2) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づく看護師等養成所の組織運営の考え方
	4	看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン	1) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 1 (1) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインとは (2) ガイドラインに基づく学校組織運営の考え方

			<ul style="list-style-type: none"> (3) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの構成 (4) 学則に関する事項 2) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 2 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生に関する事項 3) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 3 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教員に関する事項 4) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 4 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育に関する事項 5) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 5 <ul style="list-style-type: none"> (1) 施設設備に関する事項 6) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 6 <ul style="list-style-type: none"> (1) 実習施設に関する事項 (2) 管理及び維持経営に関する事項
学校組織運営における教員の役割	5	学校組織運営における教員の役割	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学校組織運営における教員の能力と役割 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教員に求められる能力 (2) 看護学校組織における教員の役割
学校組織運営に係る資源管理の基本	6	人事管理	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学校組織運営における人事管理 1 <ul style="list-style-type: none"> (1) 教員の採用・身分・処遇・配置 (2) 教員の成長支援（研修） (3) 適正な業務分担 2) 学校組織運営における人事管理 2 <ul style="list-style-type: none"> (1) 労働基準法とは (2) 労働安全衛生法とは (3) 看護職の心身の健康に影響を及ぼす業務上の危険 (4) 福利厚生等
	7	組織運営管理	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学校組織運営管理 1 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校組織運営の基盤 (2) 看護学校組織運営の特性 (3) 学校組織の構成員 2) 学校組織運営管理 2 <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護学校組織における分掌事務 (2) 看護学校組織における会議 (3) 良い組織文化・組織風土の形成 (4) 学校組織運営に必要な理論

8	教育の管理	1) カリキュラム管理 (1) カリキュラムとは (2) 基準カリキュラムと実践カリキュラム (3) 求められる3つのポリシー (4) カリキュラム評価の現状 2) 教育活動の管理 (1) 今求められる教育方法・評価 (2) 講義・学内演習・臨地実習のマネジメント 3) 教育評価と成績の管理 (1) 教育評価とは (2) 成績管理 (3) 単位（修了）認定会議・卒業認定会議 (4) 学籍簿 4) 学生の学習支援・生活支援 (1) 学習支援 (2) 学生の人権擁護 (3) 学業継続のための支援体制 5) 国家試験対策 (1) 保健師助産師看護師国家試験とは (2) 保健師助産師看護師国家試験出題基準とは (3) 国家試験受験票が届くまでのプロセス (4) 国家試験終了までの学生のメンタルフォロー
9	財務管理 ・施設設備管理	1) 学校事務・財務管理・備品施設設備管理 (1) 学校事務 (2) 財務管理 (3) 備品（図書・教材）管理 (4) 施設管理
10	看護学校の危機管理	1) 看護学校の危機管理の概要と対策 (1) 看護学校における危機管理の考え方 (2) 看護学校組織運営に関わる危機の種類 (3) 看護学校の危機管理 2) 学生の事故対応 3) 保護者クレーム対応
11	看護学校の情報管理	1) 看護学校で取り扱う情報の管理 (1) 看護学校組織運営における情報管理の考え方 (2) 組織を円滑にする情報の共有化 (3) 個人情報の保護に関する法律について

			(4) 情報セキュリティ対策の例 (5) ソーシャルメディアと今後の看護基礎教育 2) 看護学生の実習記録の取り扱い
看護学校組織運営評価	12	学校評価	1) 学校評価の概要と自己点検・自己評価 2) 自己点検・自己評価の進めかた (1) 基本方針を策定する (2) 評価の単位と範囲を決める (3) 学校評価の推進体制をつくる (4) 評価スケジュールを策定する (5) 重点目標の設定 (6) 評価項目・評価指標 (7) 自己評価結果をまとめ・公表する (8) 活用する 3) 内部評価 4) 関係者評価・第三者評価 (1) 基本方針と評価項目を決める (2) 委員選任区分・年間スケジュールを策定する (3) 学校関係者評価委員の選任・委嘱 (4) 学校関係者委員会を開催する (5) 学校関係者評価結果をまとめ・公表・活用
学校組織運営における今後の課題	13	看護学校組織運営の課題	1) 看護師等養成所の学校組織運営における今後の課題

参考図書

テキスト

1. 網野浩子, 遠藤由美子, 齊藤茂子, 林慶子, 松原定雄. 看護教員のための看護学校経営増補版. 医学書院. 2012.

参考書・参考 Web サイト

1. 山田里津, 荒川真知子監修. 新・教務必携改訂版看護学校の運営と管理. 日本看護学校協議会共済会. 2018.
2. 看護行政研究会. 看護六法 2019年版. 新日本法規出版. 2019.
3. 厚生労働省. 看護師等養成所の運営にかかわる指導ガイドライン. 2016.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/11/15/1379378_04.pdf
4. 厚生労働省. 「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書. 2003.
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/04/s0423-8a1.html>
5. 文部科学省生涯学習制作局. 専修学校における学校評価ガイドライン. 2013.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

6. 文部科学省. 学校教育法.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm
7. 文部科学省. 学校教育法施行規則.
https://elaws.egov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=322M40000080011_20170401_999M40000080011&openerCode=1
8. 中央教育審議会大学分科会大学教育部会. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン (平成 28 年 3 月 31 日 大学教育部会) .
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1369248.htm
9. 入江仁之. 「すぐ決まる組織」のつくり方—OODA マネジメント. フォレスト出版. 2018.
10. 文部科学省, 厚生労働省. 保健師助産師看護師学校指定規則.
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=326M50000180001
11. 厚生労働省. 厚生労働省今後の看護教員のあり方に関する検討会報告書. 2010.
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/02/dl/s0217-7b.pdf>
12. 厚生労働省. 看護基礎教育検討会報告書. 2020.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>
13. 厚生労働省. 看護基礎教育検討会 報告書 概要. 2020.
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html
14. ベナー・P, 井部俊子監訳. ベナー看護論新訳版—初心者から達人へ. 医学書院. 2005.
15. エドガー・H・シャイン (著), 金井壽宏 (訳). キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう. 白桃書房. 2003.
16. 厚生労働省. キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書. 2002.
<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/07/h0731-3.html>
17. 日本看護協会. 2018 年看護師養成所の教員の勤務実態等に関する会員調査結果 (抜粋) . 2018.
https://www.nurse.or.jp/nursing/4th_year/pdf/abstract.pdf
18. 文部科学省. 学校における働き方改革に関する取組の徹底について. 2019.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/_icsFiles/afieldfile/2019/04/15/1414498_2_1.pdf
19. 日本看護協会. 看護職の働き方改革の推進.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/safety/index.html>
20. P.F.ドラッカー (著), 上田 惇生 (訳). マネジメント[エッセンシャル版] - 基本と原則. ダイアモンド社. 2001.
21. 文部科学省. 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について (通知) . 2016.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1369884.htm
22. 厚生労働省. 看護師 3 年課程教育内容の変遷. 第 1 回看護基礎教育検討会 (資料) p.23. 2018.
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000203414.pdf>
23. 厚生労働省. 専任教員養成講習会及び教務主任養成講習会ガイドライン. 2015.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000021c5z-att/2r98520000021d00.pdf>
24. 梶田叡一. 教育評価. 有斐閣双書. 2010.

25. 田中耕治. 教育評価. 岩波書店. 2009.
26. 国立病院機構 <https://nho.hosp.go.jp> R1.7.14 閲覧
27. 日本学生支援機構 <https://www.jasso.go.jp/> R1.7.14 閲覧
28. 厚生労働省. 保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成 30 年版.
<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000158962.pdf>
29. グレグ美鈴, 池西悦子. 看護教育学. 南江堂. 2009.
30. 文部科学省. 学校の危機管理マニュアル作成の手引.
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/_icsFiles/afieldfile/2019/05/07/1401870_01.pdf
31. 厚生労働省. 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス.
https://www.ppc.go.jp/files/pdf/iryokaigo_guidance.pdf 2019.12.16 閲覧
32. 厚生労働省. 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書. 2003.
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/03/s0317-4.html>
33. 兼川真紀. 教育現場におけるクレーム処理について. 日本看護学校協議会共済会. 2010.
34. 無料アンガーマネジメント診断. 日本アンガーマネジメント協会.
<https://www.angermanagement.co.jp/test>
35. 個人情報の保護に関する法律
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=415AC0000000057#5
36. 看護教育 VOL54(7). 特集スマホ時代のリスク管理. 医学書院. 2013.
37. 学内研修会用資料. 特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構.
<http://www.hyoka.or.jp/>
38. 学校評価の目的・定義と流れ.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/041/siryu/attach/1367488.htm
39. 文部科学省. 学校評価ガイドライン【平成 22 年改訂】の改訂のポイント. 2016.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/06/08/1323515_03.pdf
40. 杉森みど里, 舟島なをみ. 看護教育学 第 6 版. 医学書院. 2016.
41. 牧昌見. 学校改善の実践と課題. 教育開発研究所. 2008.
42. 篠原 清昭. 学校改善マネジメント—課題解決への実践的アプローチ. ミネルヴァ書房. 2012.
43. 坂田 仰. 学校と法 (放送大学教材). 放送大学教育振興会. 2012.
44. 佐藤 学. 学校を改革する-学びの共同体の構想と実践 (岩波ブックレット). 岩波書店. 2012.
45. 江川万千代. 看護教員に伝えたい 学校管理・運営の知恵と工夫. 医学書院. 2015.

備考